

芳賀の白ばら

令和8年3月1日 第55号 編集・発行 芳賀郡市町選挙管理委員会連合会・栃木県明るい選挙推進協議会

昨年の選挙を振り返って

芳賀郡市町
選挙管理委員会連合会
会長 菊地 隆



私たち芳賀郡市町選挙管理委員会連合会は、真岡市、益子町、市貝町、茂木町、芳賀町の選挙管理委員会が協働し、芳賀郡市内の選挙啓発等に取組んでいます。

さて、昨年の選挙を振り返りますと、4月27日に真岡市長選挙及び市議会議員補欠選挙が執行され、市長選挙の投票率は43・86%と前回を2・49ポイント上回り、市議会議員補欠選挙は43・78%となりました。

員補欠選挙は無投票となりました。

本年は、芳賀地区では益子町と茂木町で町長選挙が予定されています。私たちの生活に直接関係する大切な選挙です。皆様の貴重な一票を大切に行使していただきたいと思えます。さらに、芳賀の白ばらに寄稿された若い有権者の言葉が皆様の心に届き、より良い選挙実現のための一助となることを切に願います。



【佳作】
益子町立益子小学校3年 高秀 澤央



【佳作】
益子町立益子小学校5年 高秀 一翔



【佳作】
芳賀町立田野中学校2年 川上 丈太郎



【佳作】
市貝町立小貝小学校5年 高梨 未来



【佳作】
益子町立益子中学校1年 大塚 奈菜



【佳作】
益子町立益子西小学校4年 望月 愛梨

みんなで徹底しよう「三ない運動」

政治家が選挙区内の人に、お金や物を贈ることはもちろん、有権者が政治家に寄附や贈り物を求めることも、公職選挙法により禁止されています。

寄附禁止のルールを守って、明るい選挙を実現しよう。

- 「三ない運動」とは？
- 政治家は有権者に寄附を「贈らない！」
- 有権者は政治家に寄附を「求めない！」
- 政治家から有権者への寄附は「受け取らない！」

禁止されている主なものは、次のとおりです。

- ・お歳暮やお年賀
- ・入学祝、卒業祝
- ・病氣見舞い
- ・秘書等が代理で出席する場合の結婚祝
- ・秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典
- ・葬式の花輪、供花
- ・落成式、開店祝の花輪
- ・町内会の集会や旅行などの催物への寸志や飲食物の差入れ
- ・お祭りへの寄附や差入れ
- ・地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差入れ

選挙管理委員会	
真岡市選挙管理委員会	☎0285-83-8190
益子町(総務課内)	☎0285-72-8824
茂木町(総務課内)	☎0285-63-5614
市貝町(総務課内)	☎0285-68-1111
芳賀町(総務課内)	☎028-677-1111



贈らない。 求めない。 受け取らない。

▼今年の選挙 「益子町長選挙」と「茂木町長選挙」

今年の選挙

今年、任期満了に伴い、益子町長選挙(4月12日)と茂木町長選挙(未定)が行われる予定です。

インターネット選挙運動について

近年選挙運動においてSNS等の利用が広がり、有権者が情報に触れやすくなった一方で、公職の候補者に対する誹謗中傷や虚偽の情報の拡散等の弊害も生じています。

若年層の投票率向上に向けた啓発事業について

また、有権者はインターネット上の情報を全て鵜呑みにするのではなく、選挙公報や政見放送等により正しい情報の取得を心がけましょう。

参議院議員通常選挙の投票率について

昨年は7月に参議院議員通常選挙が行われました。

今年特微的だったのは、期日前投票者数の増加と若年層(18~34歳)の投票率の上昇です。

期日前投票者数は、投票者数全体に占める割合が46・161%で、前回から10・1

意注していただきます。

令和7年7月20日執行 第27回参議院議員通常選挙(選挙区)における投票率

市町名	投票率(%)
真岡市	52.19
益子町	57.72
茂木町	60.28
市貝町	58.00
芳賀町	59.28
県平均	53.56

※県選管公式Xでは選挙に関する情報を発信しています。是非フォローをお願いします。



(栃木県選挙管理委員会)

令和7年度 明るい選挙啓発ポスターコンクール

今年度も芳賀郡市内の小・中学校の児童・生徒の皆さんから、たくさん作品の応募がありました。本紙では、栃木県の審査で入賞した作品をご紹介します。なお、敬称略とさせていただきます。

ポスターコンクールでは、芳賀郡市町から、優秀賞1作品、入賞2作品、佳作5作品が選出されました！入賞おめでとうございます！



明るい選挙イメージキャラクター 選挙のめいすいくん

「自分のたった一票だけでは、何も変わらないと思う。」若者の政治的無関心などについて取り上げられる際に、私がよく耳にする意見の一つだ。

少子高齢化社会、在日外国人数の増加、ジェンダー問題など、日本は様々な社会的課題を抱えている。それらの問題は、一人ひとりの想いだけでは解決できない。個人が社会問題を自分事として捉え、実際に行動に移さなければ、自分の過ごす環境を良い方向へ変えることはできないのだ。そのため行動の一つが、選挙である。私は考える。国民である自分がどのような社会で生活することを望むのか、そして、それを実現するためにどういった政策を支持するのか。そうした意思表示を明確に伝え、街や地域、国の在り方を方向づけていく基盤を作ることができるのが、選挙



市貝町 小野 奈菜佳

私たちが本当に願う社会の在り方に近づくために

「自分のこれから未来を、価値観も生活の状況も異なる他者に委ねても構わない」ということの意味表示であることとを、忘れないでいきたい。

初めの一步

芳賀町 中山 大二郎

近年、若者の投票率低下が問題視されています。昨年7月に行われた参議院議員通常選の全国の投票率は、全体で投票率58・51%に対し、



芳賀町 中山 大二郎

初めの一步

改めて、私が投票できるようになった当初のことを考えると、「自分がどの党の誰に投票したいのか」「各候補者のマニフェストの情報はどこで知ることができるのか」ということが分かりづらく、投票先を決めづらかったことを覚えています。ただ、平成25年に公職選挙法が改正され、インターネットでの選挙活動が可能となり、SNSや動画共有サービス等を利用した選挙運動を見るようになりました。私自身も動画配信サービス上の政権放送で各候補者のマニフェストを確認したり等、多くの情報を得ています。このように若者にとって身近なサービスに選挙情報が反映されてきたことが投票率の上昇につながったのではないかと思います。様々な情報を見

真岡のいちごめいすいくん (真岡市)



真岡市立茂木中学校3年 羽石 有沙



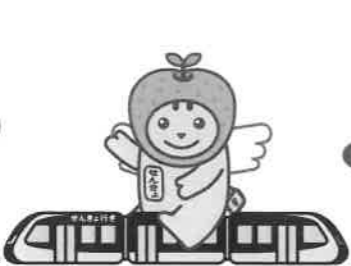
【優秀賞】

て、投票したい候補者が決まり、初めて投票をした時には何とも言えない達成感を得ましたし、一度投票を経験してみると、自分が思い描く未来にするためには行動をしないと何も変えることはできないと思うようになりました。いつでも多くの選挙情報が得られるようになり、初めの一步を踏み出すハードルは下がってきていると感じます。自分達の未来のためにも一度行動してみるのも良いのではないのでしょうか。自分達のその行動ひとつが社会を変える一歩に変わるかもしれません。

めいすいとちまるくん (栃木県)



にっこりめいすいくん (芳賀町)



サシバの里のめいすいくん (市貝町)



茂木めいすいくん (茂木町)



益子焼とめいすいくん (益子町)



有権者のひとこと

※敬称略

選挙とSNS

真岡市 古口 航



近年、選挙における投票率低下が社会問題として指摘されていますが、直近の参議院選挙では投票率が約58%となりました。参議院選挙において、投票率が50%台後半に達したのは、平成22年以来でした。今回の選挙の結果を受け、日本全体の政治的関心が少しずつ高まりつつあると感じました。しかし、海外での投票率と比較すると、日本の投票率はかなり低い数字です。この原因の一つとして、情報収集や情報の取捨選択に伴う負担が、投票へ行くまでのハードルになってきているのではないかと考えます。

この現状を踏まえ、さらなる投票率向上のためには、SNSの活用は必要不可欠であると感じました。今回の参議院選挙では、SNSを通じて多くの有権者が情報にアクセ

スすることができ、情報収集等の負担が軽減されたと考えられます。

選挙への負担が軽くなる一方で、情報の取捨選択は必須です。虚偽情報により、価値観とは異なる投票を行う可能性が高まります。ですが、一人ひとりが、正確な情報を選択すること、それぞれの価値観が反映される大きな機会になると考えます。

今後、様々な選挙において投票率向上のためには、私たち有権者がSNSを活用していく必要があります。その行動がより良い未来へ進むことを信じて、ともに投票行動を実践していきましょう。

選択と責任

益子町 小杉 蓮



選挙は未来を選ぶ場であるのにもかかわらず、若者の投票率は依然として低水準にとどまっている。総務省による

と、令和6年10月の衆議院選挙では、20歳代の投票率が34・62%、30歳代が45・66%で、全体の投票率の53・85%を大きく下回った。さらに、令和7年7月の参議院選挙では、18・19歳の投票率が41・74%と前回より改善したものの、全体投票率58・51%との差は約17ポイントに及んでいる。このように、若者世代の投票率は依然として他の世代よりも低く、政治参加の弱さが浮き彫りになっている。

その背景には、「投票しても社会は変わらない」という諦めや、政治が生活に直結している実感の乏しさなどがある。環境問題や雇用の安定、教育費負担など、若者が関心を持つテーマは多いにもかかわらず、その関心が投票行動に結びつかないのは、制度的な不便さや情報不足が障壁となっている。

しかし、SNSを通じて、「投票しなければ高齢者の意見ばかり反映される」「未来を変えるには一票から」というメッセージが拡散され、短い動画や画像により同世代に強く訴えかける動きも見られる。

投票率の低迷は単なる数字の問題ではなく、民主主義の持続可能性そのものに関わる



真岡市立真岡東小学校4年 橋本 琳翔

変わる私の選挙観

茂木町 阿良山 莉那



25歳になった今、選挙に対する自分の考え方は、以前とは大きく変わってきた。かつては「自分一人の一票なんて何の影響力もない」と思い、政治は自分とは関係のないもののように感じていた。しかし、社会人として働き、税金や将来の暮らしを具体的に考えるようになるにつれ、政治

が自分の生活に結びついていくことを実感するようになった。

さらに、投票だけでなく選挙事務を経験したことで投票所の現状を知ることができた。投票所には、自分より年下の若者が想像よりも多く投票しに来ており、自分が思っていた以上に、若い世代が政治に関心を持っていることに気づかされた。その姿を目にし、選挙は特別な行事ではなく、若者にとっても身近なものになりつつあると感じた。

また、最近SNSの影響もあり、若者の政治への意識が高まっているように思う。特にインフルエンサーが「投票に行こう」と発信することで、これまで投票に行かなかった人が一歩踏み出すきっかけにもなっていると感じる。選挙の話題を避けがちな世代が、「とりあえず行ってみよう」と参加しやすくなったのは、現代ならではの良い変化だと思う。

一票で社会が劇的に変わることはないかもしれないが、多くの一票が集まれば、それが社会を動かす力になる。自分の生活や未来を守るためにも、そして次の世代につなげるためにも、私はこれからも政治に関心を持ち、選挙に参加し続けたいと思う。